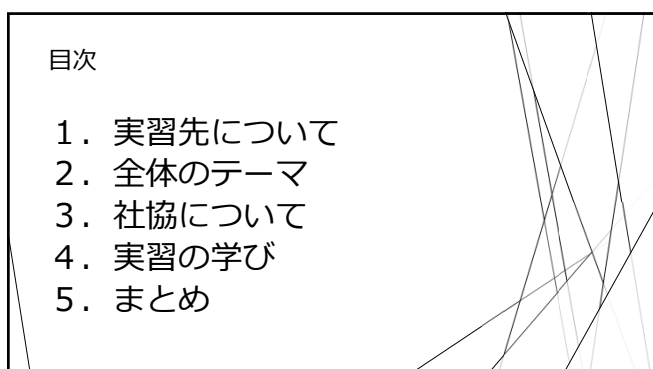
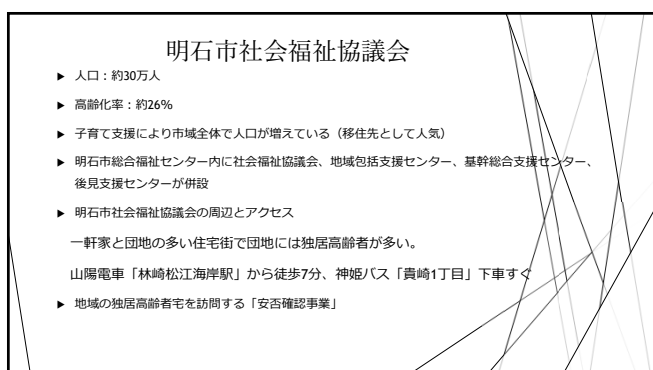




1



2



3

豊岡市社会福祉協議会

- ▶ 人口：約7万7千人
- ▶ 高齢化率：約34%
- ▶ 5つの町が合併して一つの市になっている(十数年前)
- ▶ 観光地として有名なところがある(城崎温泉など)
- ▶ 高齢化率が高く、高齢者向けの政策が多い
- ▶ 自然豊かな町である
- ▶ 公共交通機関が不足している(場所によってはバスもないところも)
- ▶ 車がないと生活しづらい
- ▶ YouTubeとよおか社協ちゃんねる)の運営
- ▶ 見守り個配サービス

4

高砂市社会福祉協議会

- ▶ 人口：約8万8千人
- ▶ 高齢化率：28.9%
- ▶ 瀬戸内の穏やかな海、美しい緑に囲まれた高砂市
- ▶ 相生の松で知られる高砂市神社や石の宝殿
- ▶ 徒歩：山陽荒井駅から約15分
- ▶ 高砂市高齢者等見守りSOSネットワーク事業
- ▶ 高砂市SOSネットワーク模擬訓練
- ▶ チームオレンジ(ボランティア)
- ▶ 生きがい対応型デイサービスセンター

5

太子町社会福祉協議会

- ▶ 人口：3万3千人
- ▶ 高齢化率：約30%(高齢化も進んでいる)
- ▶ 最寄りのJR網干駅まで徒歩約30分、車で約5分
- ▶ 「みんなが主役 地域で支える福祉の和」を目標としている
- ↳ 地域住民や関係機関との連携・ネットワークづくりを行い、共生社会実現を目指している
- ▶ SNSを活用した情報発信を熱心に取り組み、社協の活動促進を行っている
- ▶ さわやか健康課、就労継続支援事業所B型「さわやかな部屋」の皆さんで運営されている喫茶店、ボランティアセンターが併設されている

6

赤穂市社会福祉協議会

- ▶ 人口：約4万5千人
- ▶ 高齢化率：34%
- ▶ 観光地がいくつかある(赤穂城跡、大石神社、赤穂浪士など)
- ▶ 交通：1. バス交通不便地域の解消、高齢者等の移動手段の確保を目的とした市内循環バス「ゆらのすけ」
2. JR赤穂線に4駅、JR山陽本線に1駅
- ▶ 地域の困りごと応援隊
日常のちょっとした困りごとを住民同士の助け合いで解決する仕組み
→内容：家事(簡単な掃除)、暮らしの手伝い(家電の配置、草抜き)など
*ただし、依頼者と一緒ができる範囲に限る

7

2. テーマ

☆個人と地域とのつながりの中に
社協がどのように機能しているのか

8

社会福祉協議会とは

- ▶ 高齢者や障害者の在宅生活を支援するためにさまざまな福祉サービスをおこなっている
→ホームヘルプサービス(訪問介護)、配食サービスなど
- ▶ 多様な福祉ニーズに応えるため、それぞれの社協が地域の特性を踏まえ独自の事業に取り組んでいる。
- ▶ 地域のボランティアと協力し、気軽に集える場の提供(高齢者や障害者、子育て中の親子など)
- ▶ ほかに、ボランティア活動に関する相談や活動先の紹介、小中高校における福祉教育の支援等を行っている。
- ▶ 地域のさまざまな社会資源とのネットワークを有しており、多くの人びととの協働を通じて福祉活動の拠点として地域の最前線で活動している。

9

3. 実習の学び

1. 生活支援体制整備事業

1-1 知的障害を持つ方の一人暮らし

1-2 生活支援コーディネーター

10

1-1 知的障害を持つ方の一人暮らし

○概要(豊岡)

- ・50代、女性、知的障害あり、一人暮らし
- ・夏にクーラーが故障→ヘルパーさんが気づく
- ・区長をはじめとする住民の方の協力により、大事には至らず
- ・普段からも見守りをしてくださっている

○学んだこと

- ・住民の方とのつながりの大切さ
- ・地域や関係機関との連携(多職種連携)
- ・地域と個人のつながり(個別支援と地域支援)
- ・理解を得ることの難しさ

11

1-2 生活支援コーディネーター

○生活支援体制整備事業

- ・人間関係の変化や希薄化は現代での生活課題・福祉課題となっている。
- ・事業目的は社会的孤立を生まない、豊かで多様な繋がりのある地域づくりを推進すること

太子町社協・・・

○概要

ボランティアを実施するにあたって地域住民から出た意見をもとに、さらなる改善へ向けての行政との話し合い

○学んだこと

- ・ボランティアの担い手の高齢化をどのような対策をとるか
→募集チラシの作成、ボランティア養成講座の実施
- ・送迎ドライバーボランティアの少子化
→ボランティア育成のために地域の教習所との連携

12

1 - 2 生活支援コーディネーター

明石市社協・・・

○概要

- ・生活支援体制整備推進委員会
 - ・地域の生活課題についてGWを用いて整理、どのように解決していくかを検討
- 学んだこと
- ・「ちょっとしたことを頼れる人がいない」現状
 - ・近所付き合いの現実
 - ・仮説を立てる→調査、ヒアリングを行う→実際の支援

生活支援コーディネーター・・・

- ・行政との連絡共有
- ・地域福祉を推進するにあたり関係機関が同じ方向を向いて
- ・共通認識を十分に行う
- ・地域理解を深めるためには、他者との連携が重要

13

2. 食料支援

2 - 1 子ども食堂

2 - 2 フードバンク

14

2 - 1 子ども食堂

○行ったこと(高砂)

- ・高校生ボランティアと一緒に夏休みの課題補助(小学生~中学生)
- ・お昼に低額(100円)でオムライスを提供

○学んだこと

- ・出会いの場
 - ↳様々な年代の関わり、見守り、コミュニティの場としての役割
- ・新しい担い手の誕生
 - ↳高校生の関わり、子ども食堂の認知度を上げる
- ・子どもと保護者の居場所
 - ↳家庭や学校以外にも人と触れ合い話す→もう一つの居場所に

15

2-2 フードバンク(ボランティア)

○概要(赤穂)

- ・余った食品を預かり、支援を必要とする団体、家庭に無償で届けるボランティア団体
- ・代表の方のお話

○学んだこと

- ・必要以上のコミュニケーションをとらない
- ・困っている人に必要な支援を行う→状況把握が大切
- ・困窮者の気持ちの理解→背景を知ることが大切
- ・ボランティアの参加者が増えない
- ・困窮者や状況を広めていく必要あり

16

4. まとめ

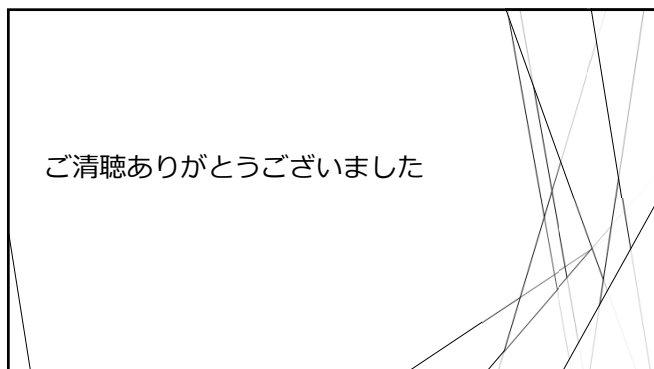
- ▶ まず、問題解決ではなく状況判断、周りの環境を知る
- ▶ 相手に安心感を与えるかかわり方(傾聴)
- ▶ 同じ目線に立って関わる
- ▶ 地域が他人事を我がごとに変えていけるような複合的な課題も
丸ごと受け止められるような体制が必要
- ▶ 他機関、多職種との情報共有
- ▶ 居場所づくり、担い手づくりの必要性
- ▶ 個別支援や地域支援などを別々に考えない
→すべてつながっている、つなげることが大切

17

○2年生へのアドバイス

- ▶ 事前学習(制度理解)を行う
- ▶ 前日しっかり寝る
- ▶ 自己紹介を考えておく
- ▶ 一人で背負い込まない

18



19
